思う。

上手の手から水がもれるという譬えのごとく、コンジローマの項に、ラテン語に誤りがある点を指摘しておきたい。

弱点のみ書いたようになったが、いろいろと便利な冊子であり各方面におすすめする次第である。

（中西　淳朗）

〔協和企画通信KK・東京都港区新橋二―二〇―一五、新橋駅前ビル一号館二階、電話〇三―三五七五―〇一八一、Iは九四年六月刊、一三二頁、IIは九五年十月刊、一三三頁、共に新書判、いずれも定価千二百円〕

松下正明編

『続・精神医学を築いた人びと』（上・下）

これは本誌第三八巻第四号（一九九二年）にわたしが紹介したものの続篇で、前著の好評にはげまされて編集したものという。今回とりあげられているのは、モレル、カールバウム、マイネルト、ジャクソン、モーズレイ、ロンブローゾ、クラフト-エービング、ベルネーム、パヴロフ、榊俶、ブロイラー、ワグナー・ヤオレック、ジャネ、ジーモン、アドラー、ガウプ、ベルガー、ウィルマンス、森田正馬、今村新吉、エコノモ、三宅鑛一、グルーレ、ビンスワンガー、ヤスパース、ミンコフスキー、林道倫、下田光造、丸井清泰、クレッチマー、サリヴァン、内村祐之の計三二名。編者によれば、論文がかかれた主要言語でわけると、前著とあわせて、日本一四名、ドイツ語圏二七名、フランス語圏九名、英米語圏六名、ロシヤ語圏三名、イタリヤ語圏一名という。

対象の選択の困難にまして、書き手の選択はさらに困難であったろう。それらを克服して、これだけのものにしあげられた編者のご苦労には脱帽するばかりである。編者が意図しながらいれられなかったコノリー、マイヤーなどはぜひよませてほしかった。日本への精神分析導入については、丸井よりは古澤平作をとりあげるべきだった（索引で古澤の名がFの項にはいっているのは情けない）。変質論、ウィーン大学に精神医学の二講座があった件など、もっとも興味をもってよませていただいた。後者は、松沢病院の院長をめぐって東京府と精神病学教室とのあいだにおもわくの食い違いがあったことをおもいださせた。

ところで、一人につき一五頁前後の評伝となると、伝記の基本的事項はきっちりおさえてほしいものだが、この要請は充分にはみたされていない。生没については月日までいれてほしいが、生没の年を本文中にしるしていないものがある。わたしは外国の事情にうといが、たとえば、研究者として著名な夫人の姓を誤記しているものもある。もう一つ気がついたのは、ハイフンでつながれる二重姓の扱いである。それをハイフンをおとしているために、索引では二重姓のあとのもののでている。ワグナー・ヤオレックも、年表の論文はヤオレック姓になっている。そのほか、わたしのとぼしい知識からしても、たりぬ記述、あるいは年の誤りがいくつか目につ

いた。校正もれもややおおい。

わたしはここに榊俶伝をかいた。まえにかいたものを抄録するような形でかき、飛ばし読みのため年を一つまちがえて、それは小関恒雄氏からご指摘いただいた。弁解めくが、ちいさな誤りはさけがたい。といっても、かなり基本的な事項についての誤りは問題である。東京大学精神科の教授は、呉秀三の洋行中は片山國嘉が代行した、あるいは三宅が三代目である、とかかれている。じつは片山は精神病学講座を兼担していた、教室のあった巣鴨病院へも週に二、三回いっていたことはわたしの『私説松沢病院史』(一九八一年)にもしるした。であるから、精神科の教授は榊―片山―呉―三宅―内村とつながり、三宅は四代目教授になる。「東京大学医科大学」なるものは存在しなかった。土田獻が「上田」姓になっていることも問題で、精神医学史の根本的事項が根づいていないことをそれはしめしている。

齋藤玉男の姓が「斉藤」としるされていることもいただけない。わたしも旧字体から新字体への切り換えのあと、「斉」と「斎」とをしばらく混同していた。今の人で新字体をみずからつかわれる人のものはべつにして、姓名は旧字体でかくのが適当だと、わたしはかんがえている。

外国の学者につきかくにしても、日本に関係した事項があるものについては、くわしくふれてほしい(たとえばモーズレイ原著による『精神病約説』)。また関連して日本の学者にふれるのに、やたらに「名誉教授」を(そうでない人にも)つけるのはやめてほしい(肩書きをつけるなら、その時点のものにすべきだろう)。林、下田がならぶが、この二人が同級であったことにもふれてほしかった(しかも、分裂病の病理について二人は反対の見解に達していた)。

最後に、編者に索引に目をとおすことをお願いしたい。自著の索引をつくると、おもいがけぬ誤りがみつかるものである。本書のばあい、筆者校正後の時間が充分にあったのだから、編者が索引および全体に目をとおしていれば、この本は「精神医学史の学問を根づかせ」る(編者序文から)よい基盤となったはずである。

これ、望蜀のたぐいか。

(岡田　靖雄)

〔ワールド・プラニング・東京都港区赤坂二―二〇―一三、電話〇三―三二二四―一八四五、一九九四年、A5判、上二九〇頁、下三〇九頁、上・下とも三八〇〇円〕

日野秀逸著

『保健活動の歩み　人間・社会・健康』

本書は、その研究過程において、一貫して衛生行政思想および医療政策論を考究してきた著者の最近著の一つである。本書は、その「まえがき」にもあるように、『保健婦雑誌』(医学書院)に一九八六年から一九八八年にわたって連載された「公衆衛生の歴史をたどる」が基礎稿となっている。さらに著者の記すところによれば、その連載にあたって骨格となっ